

## 指定事業所に係る変更許可申請書

〇〇年 〇〇月 〇〇日

（あて先）川崎市長

**実際に提出する日付を記入  
郵送の場合は投函日**

**指定事業所の設置許可時の許可番号及び許可日を転記する。**  
**※市条例施行の際、すでに県条例の許可を受けていた場合は「附則第3項」にチェックする。**

郵便番号 210-0004  
 住 所 川崎市川崎区宮本町1番地  
 氏 名 川崎産業株式会社  
 代表取締役 甲乙 丙丁 押印不要  
 （法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例第22条第1項の規定により、指定事業所に係る変更の許可を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

指定事業所の名称等	許 可 番 号	第 〇〇〇 号	根 拠 等	<input checked="" type="checkbox"/> 条例第17条第1項（〇〇年〇〇月〇〇日） <input type="checkbox"/> 条例第29条第1項（    年    月    日） <input type="checkbox"/> 条例附則第3項 <input type="checkbox"/> 条例附則第5項（    年    月    日）
	名 称	川崎産業株式会社 川崎工場		
	所 在 地	川崎市川崎区X町一丁目1番1号		
	変 更 事 項	<input type="checkbox"/> 指定事業所における自動車の出入口の位置の変更（出入口が異なる道路に接することとなる場合に限る。） <input type="checkbox"/> 指定作業を行う建物の変更 <input type="checkbox"/> 設置 <input type="checkbox"/> 移設 <input type="checkbox"/> 除却 <input type="checkbox"/> 規模の変更 <input type="checkbox"/> 構造の変更 <input type="checkbox"/> 指定作業の追加 <input checked="" type="checkbox"/> 指定施設の設置 <input type="checkbox"/> 別表第1の68の項に掲げる貯蔵施設において保管する物質の変更 <input checked="" type="checkbox"/> 公害の防止のための装置の変更 <input type="checkbox"/> 設置 <input checked="" type="checkbox"/> 構造の変更 <input type="checkbox"/> 使用方法の変更 <input type="checkbox"/> 使用の廃止 <input type="checkbox"/> 除却 <input type="checkbox"/> 排煙指定物質，特定有害物質又は炭化水素系特定物質を含有する原材料等の新たな使用		
変 更 理 由	・ボイラーの更新及び増設（1基→2基） ・めっき施設の増設 ・排水処理装置の構造の変更			
工事着手予定年月日	〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日			
変更完了予定年月日	〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日			

(裏)

他の公害関係法規等の手続状況	<input checked="" type="checkbox"/> 大気汚染防止法 ○○年○○月○○日提出 <input checked="" type="checkbox"/> 水質汚濁防止法 ○○年○○月○○日提出 <input type="checkbox"/> 騒音規制法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> 振動規制法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> ダイオキシン類対策特別措置法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> 下水道法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> 建築基準法 年 月 日提出 <input type="checkbox"/> 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 年 月 日提出
事業所の従業員数	200人
環境配慮事項	環境への負荷の低減 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 化学物質の適正管理 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 自動車排出ガスの排出の抑制等 要 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/> 温暖化物質の排出の抑制 要 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/> 廃棄物の発生の抑制及び再生利用等 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 環境の保全に係る組織体制の整備 要 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/> その他環境への負荷の低減 要 <input type="checkbox"/> 不要 <input checked="" type="checkbox"/>
連絡先	担当部署 総務部 総務課 担当者氏名 甲乙 戊己 電話番号 ○○○—○○○○ (内線) ○○○
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 指定事業所に係る変更概要書 <input checked="" type="checkbox"/> 公害防止方法変更計画書 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )

- 備考 1 他の公害関係法規等の手続状況の欄には、手続を行った法規について□内にレ印を記載し、その手続を行った年月日を記載してください。
- 2 環境配慮事項の欄には、該当する□内にレ印を記載し、「要」に該当する環境配慮事項に関する配慮概要書を添付してください。
- 3 添付書類の欄には、添付した書類については□内にレ印を記載し、その他の書類を添付した場合にはその添付した書類の名称を( )内に記載してください。
- 4 氏名(法人にあってはその代表者の氏名)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあってはその代表者)が署名することができます。

指定事業所に係る変更概要書

同型の機種が複数ある場合も1基ずつ記載する

1 指定施設の設置

指 定 施 設	名 称		61(1)ボイラー	61(1)ボイラー	64(3)めっき施設
	事業所における施設番号		B-2	B-3	M-2
	種 類 及 び 型 式		□□社製△△型	□□社製△△型	○○社△△製
	台 数		1	1	1
	規 模 又 は 能 力		30ℓ/h、15㎡	30ℓ/h、15㎡	800L×7500W×800
	用 途		給湯用	給湯用	めっき用
	構 造 ・ 配 置 状 況		別紙○のとおり	別紙○のとおり	別紙○のとおり
	燃 料 又 は 電 力	種 類	都市ガス	都市ガス	
		燃 料 中 の 成 分 割 合 (%)	硫 黄 分	0	0
			窒 素 分	0.01	0.01
総 発 熱 量		45,000kJ/m <sup>3</sup> N	45,000kJ/m <sup>3</sup> N		
原 材 料 (排煙の発生に影響のあるものに限る。)	種 類			施設更新の場合、この様式には新設するものを記載し、廃止する施設は使用廃止後に別途変更届を提出	
	原材料中の成分割合(%)				
	1日の使用量又は取扱量				
使 用 状 況	1 日 の 使 用 時 間	7:30~19:00	7:30~19:00	8:00~18:00	
	季 節 変 動	なし	なし	なし	

- 備考 1 指定施設の原材料中の成分割合の欄には、硫黄分、窒素分及び燃焼に伴い排煙指定物質を排出する可能性のある成分について、その割合を重量比・容量比の別を明らかにして記載してください。  
 2 指定施設の熱源として電力を使用する場合は、種類の欄に「電力」と記載してください。

2 排煙指定物質、特定有害物質又は炭化水素系特定物質を含有する原材料等の新たな使用

品 目				
用 途				
1月当たりの使用量				
含 有 物 質				
含 有 率				

(裏)

3 その他の変更

変 更 事 項	変 更 前	変 更 後
・めっき施設の増設に伴う排水処理施設への接続 ・排水処理施設での使用薬品増加のため薬品タンクを新設	別紙〇のとおり	別紙〇のとおり

4 作業工程

変更なし

5 排水の排出先

公共下水道 (  分流式  合流式 )  
 公共用水域 ( 〇〇川 )  
 地下浸透  
 その他 ( )

備考 1 該当する□内にレ印を記載してください。  
2 その他については、汚水等を別表第1の53の項に掲げる処理施設等に排出する場合にその排出先を( )内に記載してください。

6 用排水収支バランス

別紙〇のとおり

公害防止方法変更計画書

変更に係る指定施設等の公害発生源	発生する主な公害の種類	発生源での公害の程度の予測値	公害防止対策	排出口等での公害の程度		
				変更前の実測	変更後の予測	変更後の予測値の根拠
めっき施設 M-2	悪臭		スクラバー			
//	水質 (硫酸ニッケル)	300mg/ℓ	排水処理装置	<0.5 mg/ℓ	<0.5 mg/ℓ	除去率99%以上
変更があるものを記入						
変更に係る指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法		<input checked="" type="checkbox"/> 大気汚染物質の排出方法概要書 <input checked="" type="checkbox"/> 硫黄酸化物の排出量明細書 <input checked="" type="checkbox"/> 窒素酸化物の排出量明細書 <input type="checkbox"/> 炭化水素系物質の設備基準概要書 <input type="checkbox"/> ばいじんの排出量明細書 <input type="checkbox"/> ばいじんの設備基準概要書 <input type="checkbox"/> 粒子状物質の排出量明細書 <input type="checkbox"/> 粉じんの処理方法概要書 <input checked="" type="checkbox"/> 悪臭の処理方法概要書 <input checked="" type="checkbox"/> 排水の汚染状態，量等明細書 <input checked="" type="checkbox"/> 排水の処理方法概要書 <input type="checkbox"/> 特定有害物質の製造等の作業に係る施設の構造概要書 <input type="checkbox"/> 騒音の処理方法概要書 <input type="checkbox"/> 振動の処理方法概要書 <input type="checkbox"/> その他変更に係る指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法を明らかにする図面，表等				

付表の記入例は  
設置許可申請書を参照

備考 1 発生する主な公害の種類のカラムには，大気汚染及び水質汚濁に係るものについては，別表第3から別表第9まで，別表第11及び別表第12に掲げる物質名又は項目を記載してください。  
 2 変更に係る指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法のカラムには，添付したものについて□内にレ印を記載してください。

大気汚染物質の排出方法概要書

処理前の排出ガスを記入

指定事業所における排煙発生施設の名称及び番号			B-1 ボイラー	T-1 塗装施設	D-1 脱脂洗浄施設	M-1 めっき施設	
指定事業所における大気汚染物質処理施設の番号				T-1-1	D-1-1	M-1-1	
大気汚染物質処理施設の種類、名称及び型式				直接燃焼式 脱臭施設	活性炭 吸着装置	スクラバー	
排出ガス量(定格能力) (m <sup>3</sup> <sub>N</sub> /h)		湿り	550				
		乾き	470	3060	200	5400	
排出ガス中の酸素濃度(%)			4				
処	排出ガス温度(°C)		処理前	200			
			処理後				
大	硫黄酸化物 (容量比ppm)	処理前					
		処理後					
気	窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前	56(O <sub>2</sub> =5%)				
		処理後					
汚	ばいじん (g/m <sup>3</sup> <sub>N</sub> )	処理前	0.001 (O <sub>2</sub> =5%)				
		処理後					
染	トルエン (ppm)	処理前		29			
		処理後		1			
物	キシレン (ppm)	処理前		94			
		処理後		3			
の	トリクロロエチレン (ppm)	処理前			300		
		処理後			5		
濃	除去率(%)				除去率(%) = (1 - 処理後/処理前) × 100		
	硫黄酸化物						
度	除去率(%)				96%以上		
	窒素酸化物						
力	除去率(%)				//		
	ばいじん						
除去率(%)					98%以上		
トルエン							
除去率(%)					98%以上		
キシレン							
除去率(%)					98%以上		
トリクロロエチレン							
排出口の実高さ(m)及び口径(m)			10m× φ0.5m	8.1m× φ0.5m	7m× φ0.3m	11m× φ0.85m	

- 備考 1 大気汚染物質処理施設を設置していない場合は、排出ガスの温度及び大気汚染物質の濃度を処理前の欄に記載してください。
- 2 大気汚染物質の濃度の欄には、乾きガス中の濃度を記載してください。
- 3 大気汚染物質の濃度及び除去率の欄には、排煙発生施設から発生する排出ガス中に含まれる硫黄酸化物、窒素酸化物及びばいじんについて記載するほか、炭化水素系物質及び排煙指定物質について、それぞれ物質の種類ごとに記載してください。
- 4 ばいじん濃度の酸素濃度補正を行う施設については、補正值を記載してください。 5 硫黄酸化物については、脱硫装置を設置している場合にのみ記載してください。

硫黄酸化物の排出量明細書

1 指定事業所における硫黄酸化物排出量等

項 目	数 値
年間使用熱量 K(10 <sup>10</sup> kJ/年)	0.314
使用熱量10 <sup>5</sup> キロジュール当たりのSO <sub>2</sub> 排出量 R(g/10 <sup>5</sup> kJ)	0
SO <sub>2</sub> 排出量 E(t/年)	0

2 指定事業所における指定施設別の時間当たりのSO<sub>2</sub>排出量等

指 定 施 設 名	施 設 の 種 類	原料及び燃料 使用量 (kg/h又はm <sup>3</sup> <sub>N</sub> / h) (W)	原料及び 燃料中の 硫黄分 (%) (S)	原料及び燃料 の総発熱量 (kJ/kg、m <sup>3</sup> <sub>N</sub> ) (q)	硫黄酸化物の排出 量 (g/h) (e)	使用熱量 (kJ/h) (f)	備 考
ボイラー	61(1)	33.6m <sup>3</sup> N/h	0	45,000kJ/m <sup>3</sup> N	0	1,512,000	
合 計						1,512,000	

3 指定事業所における指定施設別の年間SO<sub>2</sub>排出量等

指定施設名	施設の種類	硫黄酸化物の 排出量 (g/h) (e)	使用熱量 (kJ/h) (f)	年間稼働時間 (H)	年間硫黄 酸化物の 排出量 (t/年) (G)	年間使用熱量 (10 <sup>10</sup> kJ/年) (L)
ボイラー	61(1)	0	1,512,000	2,080	0	0.314
合計						

備考 1 Kとは、個々の指定施設における年間使用熱量の合計をいいます。

$$K(10^{10}\text{kJ/年}) = \Sigma L$$

なお、Lは、次式により算出されるものをいいます。

$$L(10^{10}\text{kJ/年}) = \frac{f \times H}{10^{10}}$$

2 Rとは、別表第3に定める排出許容限度と比較するものであり、次式により算出されるものをいいます。

$$R = \frac{\Sigma e \times 10^5}{\Sigma f}$$

3 Eとは、個々の指定施設におけるSO<sub>2</sub>の量の合計をいいます。

$$E(\text{t/年}) = \Sigma G$$

なお、Gは、次式により算出されるものをいいます。

$$G(\text{t/年}) = e \times H \times 10^{-6}$$

4 Wとは、個々の指定施設での1時間の燃料又は原料使用量をいいます。

5 Sとは、脱硫装置を設置している施設においては、原料及び燃料の硫黄分に脱硫効率を考慮したものをいいます。

6 硫黄分(%)とは、気体にあつては容積割合で、原料及び液体にあつては重量割合をいいます。

7 qとは、原料及び燃料の総発熱量をいいます。

8 eとは個々の指定施設から排出されるSO<sub>2</sub>の量をいいます。

なお、個々の施設における気体燃料の燃焼による場合は、次式により算出されるものをいいます。

$$e(\text{g/h}) = W \times S \times 0.029 \times 10^3$$

また、気体以外の燃料の場合は、次式により算出されるものをいいます。

$$e(\text{g/h}) = W \times S \times 0.02 \times 10^3$$

9 fとは、個々の指定施設から排出される使用熱量をいいます。

$$f(\text{kJ/h}) = W \times q$$

10 Hとは、指定施設における年間稼働時間をいいます。



### 窒素酸化物の排出量明細書

別表第4により確認する

#### 1 日規制基準

(1) 指定事業所における窒素酸化物の量に係る使用熱量当たりの排出許容限度

排出区分	a 燃焼の場合(b、c及びdを除く。)	b ガラス溶融炉の場合	c セメント焼成炉の場合	d 廃棄物焼却炉の場合
排出許容限度 (g/10 <sup>5</sup> kJ)	3.8g/10 <sup>5</sup> kJ			

(2) 指定事業所における1日当たりの窒素酸化物の排出量等

排出区分	a 燃焼の場合(b、c及びdを除く。)	b ガラス溶融炉の場合	c セメント焼成炉の場合	d 廃棄物焼却炉の場合
① 1日当たりの使用熱量 (10 <sup>5</sup> kJ/日)	510.4			
② 1日当たりの窒素酸化物の排出量 (g/日)	377			
使用熱量当たりの窒素酸化物の排出量(②÷①) (g/10 <sup>5</sup> kJ)	0.7386			

備考 廃棄物焼却炉にあつては、「使用熱量」を「焼却量」に、「10<sup>5</sup>kJ」を「t」に、それぞれ読み替えます。

(3) 窒素酸化物の日排出量等積算書

排出区分	排煙発生施設名	③ 1日の施設稼働時間 (h/日)	定格能力運転時の燃料使用量等の状況					定格能力運転時の窒素酸化物の排出量等の状況					⑫ 使用熱量当たりの窒素酸化物の排出量 ( $\text{g}/10^5\text{kJ}$ )	
			燃料種類	④ 1時間当たりの燃料使用量 ( $\text{kg}, \text{m}^3_{\text{N}}/\text{h}$ )	⑤ 1日の燃料使用量 ( $\text{kg}, \text{m}^3_{\text{N}}/\text{日}$ )	⑥ 単位総発熱量 ( $\text{kJ}/\text{kg}, \text{m}^3_{\text{N}}$ )	⑦ 1日の使用熱量 ( $\text{⑤} \times \text{⑥} \div 10^5$ ) ( $10^5\text{kJ}/\text{日}$ )	⑧ 乾き排出ガス中の窒素酸化物の濃度 (ppm)	乾き排出ガス中の酸素濃度 (%)	⑨ 1時間当たりの乾き排出ガス量 ( $\text{m}^3_{\text{N}}/\text{h}$ )	⑩ 1日当たりの乾き排出ガス量 ( $\text{③} \times \text{⑨}$ ) ( $\text{m}^3_{\text{N}}/\text{日}$ )	⑪ 1日当たりの窒素酸化物の排出量 ( $\text{⑧} \times \text{⑩} \times 46 \div 22.4 \div 10^3$ ) ( $\text{g}/\text{日}$ )		
変更後	a	ボイラー	8	13A	141.8	1134.4	45,000 $\text{kJ}/\text{m}^3_{\text{N}}$	510.4	45	5%	510	4,080	377	0.73
変更前	合計							① 510.4					② 377	

- 備考
- この表は、排出区分ごとに作成してください。
  - 排出区分の欄には、前項の表の排出区分に応じ、a, b, c又はdのいずれかの文字を記載してください。
  - 廃棄物焼却炉にあっては、「燃料使用量」及び「使用熱量」を「焼却量」に、「 $10^5\text{kJ}$ 」を「t」に、それぞれ読み替えて、単位総発熱量の値を「100」とします。
  - 燃料使用量は、気体燃料にあっては容量で表示し、それ以外は重量で表示します。
  - 排煙発生施設の数が多く、2以上の表を作成したときは、合計の欄は、最後の表に表記されているものとします。

別表第5の1の対象施設が設置される場合は記入

第3号様式(付表4)

炭化水素系物質の設備基準概要書

発生源の概要	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">対象となる施設の名称、施設能力(貯蔵量)等を記入</div>
炭化水素系物質排出防止装置の種類、名称及び型式	
処理の方法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">処理方法を具体的に記入し、適宜図面等を添付</div>
装置の処理能力 (処理ガス量 $m^3_N/h$ )	
装置の入口濃度(ppm)	
排出口における濃度(ppm)	
除去率(%)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <math>除去率(\%) = (1 - \text{処理後} / \text{処理前}) \times 100</math> </div>

備考 別表第5第1項に規定する施設について記載してください。

**別表第1の「51・廃棄物焼却炉」に該当する場合は記入**

**ばいじんの排出量明細書**

1 廃棄物焼却炉別のばいじんの排出量の許容限度等

廃棄物焼却炉の番号及び記号	① ばいじんの排出量の許容限度 $Q_i$ (g/h)	② 係 数  $C_i$	③ 定格能力運転時の乾き排出ガス量 ( $O_2$ 12%換算) $V$ ( $m^3_N/h$ )  $[\frac{21-④}{9} \times ⑤]$	④ 定格能力運転時の乾き排出ガス中の酸素濃度  $O_i$ (%)	⑤ 定格能力運転時の乾き排出ガス量  $V_i$ ( $m^3_N/h$ )

2 廃棄物焼却炉別のばいじんの排出量等

廃棄物焼却炉の番号及び記号	⑥ ばいじんの排出量  $Q$ (g/h)  $[(7) \times (8) \times (\frac{3}{8})]$	⑦ ばいじんの排出濃度  $C$ ( $g/m^3_N$ )  $[\frac{9}{21-⑩} \times (9)]$	⑧ 乾き排出ガス量 ( $O_2$ 12%換算) $V_c$ ( $m^3_N/h$ )  $[\frac{21-⑩}{9} \times ⑪]$	⑨ 乾き排出ガス中のばいじんの排出濃度 $C_s$ ( $g/m^3_N$ )	⑩ 乾き排出ガス中の	⑪ 乾き排出ガス量  $V_s$ ( $m^3_N/h$ )

備考  $Q_i, C_i, V, O_i, V_i, Q, C, V_c, C_s, O_s$ 及び $V_s$ とは、別表第6に定めるものをいいます。

## ばいじんの設備基準概要書

発生源の概要	<input type="checkbox"/> 廃棄物焼却炉  <input type="checkbox"/> 施設名( )
集じん装置の設置の種類、名称及び型式	
湿式・乾式の区別	
集じん装置の処理能力 (処理ガス量 $m^3_N/h$ )	
除去率(%)	
排出口の実高さ(m)及び口径(m)	
二次燃焼室	<input type="checkbox"/> 有(助燃バーナー <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> 無
通風調整設備	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
炉内温度計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
集じん装置入口温度計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
酸素濃度計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
一酸化炭素濃度計	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
記録装置	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
備考	

備考 1 のある欄には、該当する内にレ印を記載してください。

2 発生源の概要の欄の施設名の( )内には、別表第6第2項の表の施設の種類の欄に掲げる施設名を記載してください。

別表 8 の 1 又は 2 に該当する場合は記入

粒子状物質の排出量明細書

1 指定事業所における粒子状物質の量の排出許容限度等

排出区分 項目	a 燃焼の場合 (b, c, d, e 及び f を除く。)	b ガラス溶融炉の場合	c セメント焼成炉の場合	d 洗剤乾燥炉の場合	e 洗剤乾燥炉以外の乾燥炉の場合	f 廃棄物焼却炉の場合
係数 $\gamma$						
係数 (使用熱量当たりの粒子状物質の量) $P$ (t/10 <sup>10</sup> kJ)						
係数 $k$						
年間使用熱量 $H$ (10 <sup>10</sup> kJ/年)						
年間使用熱量 $H_0$ (10 <sup>10</sup> kJ/年)						
年間使用熱量 $H_i$ (10 <sup>10</sup> kJ/年)						
窒素酸化物の年規制基準 $Q_N$ (t/年)						
年間の粒子状物質の排出量 (t/年)	新設の事業所の場合 $\gamma PH + 0.094 Q_N$					
	新設の事業所以外の事業所の場合 $kPH_0 + \gamma PH_i + 0.094 Q_N$					
排出許容限度 $Q$ (t/年)						

備考 1 廃棄物焼却炉にあつては、「使用熱量」を「焼却量」に、「年間使用熱量」を「年間の焼却量」に、「10<sup>10</sup>kJ」を「t」に、それぞれ読み替えます。

2  $\gamma$ ,  $P$ ,  $k$ ,  $H$ ,  $H_0$ ,  $H_i$ ,  $Q_N$ ,  $Q$ とは、別表第8に定めるものをいいます。

3  $H$ 及び $H_i$ については、排煙発生施設の稼働後1年間の実績値により確定します。

## 2 指定事業所における粒子状物質の年間の排出量等

排出区分	a 燃焼の場合 (b, c, d, e及びfを除く。)	b ガラス熔融炉の場合	c セメント焼成炉の場合	d 洗剤乾燥炉の場合	e 洗剤乾燥炉以外の乾燥炉の場合	f 廃棄物焼却炉の場合
① 年間のばいじんの排出量 $q_p$ (t/年)						
年間の硫黄酸化物の排出量 $q_s$ (t/年)						
年間の窒素酸化物の排出量 $q_N$ (t/年)						
年間の塩化水素の排出量 $q_H$ (t/年)						
② 硫黄酸化物から生成される粒子状物質の量 ( $0.197 \times q_s$ ) (t/年)						
③ 窒素酸化物から生成される粒子状物質の量 ( $0.094 \times q_N$ ) (t/年)						
④ 塩化水素から生成される粒子状物質の量 ( $0.892 \times q_H$ ) (t/年)						
年間の粒子状物質の排出量 $P_e$ (①+②+③+④) (t/年)						
⑤ 年間の粒子状物質の排出量(合計値) $P_E$ (t/年)						

備考  $q_p$ ,  $q_s$ ,  $q_N$ ,  $q_H$ ,  $P_e$ ,  $P_E$ とは、別表第8に定めるものをいいます。

粉じんの処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・粉体塗料の使用</p>
<p>処理方法</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 粉じんが飛散しにくい構造の建物内で作業を実施  <input checked="" type="checkbox"/> 集じん装置の設置              装置の種類, 名称及び型式 ( 塗装ブース )              湿式・乾式の区別 ( 湿 式・<input checked="" type="checkbox"/> 乾 式 )              装置の処理能力(処理ガス量<math>m^3_N/h</math>) ( 3, 060 )              除去率(%) ( 85%以上 )              排出口の実高さ及び口径 ( 8.1×φ0.5m )  <input type="checkbox"/> 散水設備の設置              設備の種類, 型式及び基数 ( )              設備の能力(<math>m^3/h</math>) ( )              散水の方法 ( )  <input type="checkbox"/> 防じんカバー等の設置 ( )              防じんカバー等の設置状況 ( )    <input type="checkbox"/> その他の処理方法 ( )    <input type="checkbox"/> ( )       </p>

備考 □のある欄には、該当する□内にレ印を記載してください。



悪臭の処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・ 塗装施設から発生するシンナー臭/トルエン/キシレン</p>
<p>処 理 方 法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 脱臭設備の設置</p> <p>設備の種類, 名称及び型式 (直接燃焼式脱臭装置)</p> <p>湿 式 ・ 乾 式 (湿 式 <input checked="" type="checkbox"/> 乾 式)</p> <p>設備の処理能力(処理ガス量<math>m^3_N/h</math>) ( 3, 0 6 0 )</p> <p>排出口の実高さ及び口径 ( 8.1×φ0.5 m )</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭の漏れにくい構造の建物内で作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋内で実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋外で実施</p> <p>〔 その理由 〕</p> <p><input type="checkbox"/> 周辺に影響を及ぼさない位置を選び作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する原材料, 製品等の保管方法</p> <p>〔 保管方法 〕</p> <p>塗料及びシンナー類は密閉して保管庫で保管する</p> <p><input type="checkbox"/> 臭気指数の許容限度に適合することとなる措置</p> <p>〔 〕</p>

- 備考 1 □のある欄には, 該当する□内にレ印を記載してください。
- 2 周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施する場合には, 作業実施位置図を添付してください。
- 3 事業所内に複数の建物がある場合には, 主な建物の位置や高さが分かる図面等を添付してください。
- 4 原材料, 製品等の保管方法, 保管する建物の位置等が分かる図面等を添付してください。

悪臭の処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・脱脂洗浄施設から発生するトリクロロエチレン臭</p>
<p>処 理 方 法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 脱臭設備の設置</p> <p>設備の種類, 名称及び型式 ( 活性炭吸着装置 )          湿 式 ・ 乾 式 ( 湿 式・<b>乾 式</b> )          設備の処理能力(処理ガス量<math>m^3_N/h</math>) ( 200 )          排出口の実高さ及び口径 ( 7×φ0.3m )</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭の漏れにくい構造の建物内で作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋内で実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋外で実施</p> <p>〔 その理由 〕</p> <p><input type="checkbox"/> 周辺に影響を及ぼさない位置を選び作業を実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭を発生する原材料, 製品等の保管方法</p> <p>〔 保管方法 〕          薬品類は密閉して保管庫で保管する</p> <p><input type="checkbox"/> 臭気指数の許容限度に適合することとなる措置</p> <p>〔 〕</p>

- 備考 1 □のある欄には, 該当する□内にレ印を記載してください。  
 2 周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施する場合には, 作業実施位置図を添付してください。  
 3 事業所内に複数の建物がある場合には, 主な建物の位置や高さが分かる図面等を添付してください。  
 4 原材料, 製品等の保管方法, 保管する建物の位置等が分かる図面等を添付してください。

悪臭の処理方法概要書

<p>発生源の概要</p>	<p>・ めっき施設から発生する臭気</p>
<p>処 理 方 法</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 脱臭設備の設置</p> <p>設備の種類, 名称及び型式 ( スクラバー )</p> <p>湿 式 ・ 乾 式 ( <span style="border: 1px solid black;">湿 式</span> ・ 乾 式 )</p> <p>設備の処理能力(処理ガス量<math>m^3_N/h</math>) ( 5,400 )</p> <p>排出口の実高さ及び口径 ( 11×φ0.85m )</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 悪臭の漏れにくい構造の建物内で作業を実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋内で実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する作業は屋外で実施</p> <p>( その理由 )</p> <p><input type="checkbox"/> 周辺に影響を及ぼさない位置を選び作業を実施</p> <p><input type="checkbox"/> 悪臭を発生する原材料, 製品等の保管方法</p> <p>( 保管方法 )</p> <p><input type="checkbox"/> 臭気指数の許容限度に適合することとなる措置</p> <p>( )</p>

- 備考 1 □のある欄には, 該当する□内にレ印を記載してください。
- 2 周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施する場合には, 作業実施位置図を添付してください。
- 3 事業所内に複数の建物がある場合には, 主な建物の位置や高さが分かる図面等を添付してください。
- 4 原材料, 製品等の保管方法, 保管する建物の位置等が分かる図面等を添付してください。

排水の汚染状態、量等明細書

項目	水量 (m <sup>3</sup> /日)		温度(°C)		色汚染度 (度)		pH	BOD (mg/l)		COD (mg/l)		SS (mg/l)	
	通常	最大	通常	最大	通常	最大		通常	最大	通常	最大	通常	最大
排水処理施設名													
排水処理施設	処理前	70	90				3.5	20	30	25	30	20	30
	処理後	70	90				7.0	10	20	15	20	10	20
合併浄化槽	処理前	20	30				7.5	200	300	200	300	250	280
	処理後	20	30				7.5	15	20	15	20	40	60
排水口別													
No. 1		70	90				7.0	10	20	15	20	10	20
No. 2		20	30				7.5	<15	<20	<15	<20	<40	<60
合計		90	120										

1日当たりの排水量が300m<sup>3</sup>以上の排水口について記入

項目	n-ヘキサン抽出物質含有量(mg/l)				大腸菌群数 (個/cm <sup>3</sup> )	トリクロエチレン (mg/l)	六価クロム (mg/l)	(mg/l)	(mg/l)
	鉍油類		動植物油脂						
	通常	最大	通常	最大					
排水処理施設名									
排水処理施設	処理前	3	5			<0.01	<0.01	250	300
	処理後	<1	<1			<0.01	<0.01	0.1	0.2
合併浄化槽	処理前								
	処理後			<3000	<3000				
排水口別									
No. 1		<1	<1			<0.01	<0.01	<0.1	<0.2
No. 2		<1	<1			<3000	<3000		

項目は排出が予想されるものを記入

水質は推定水質を記入

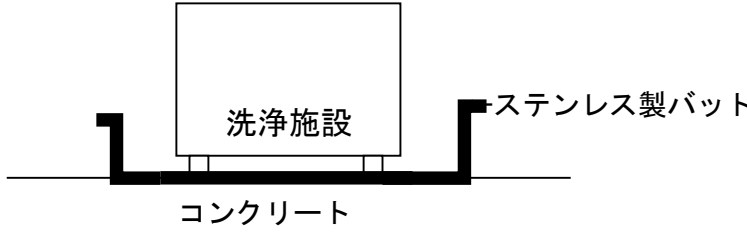
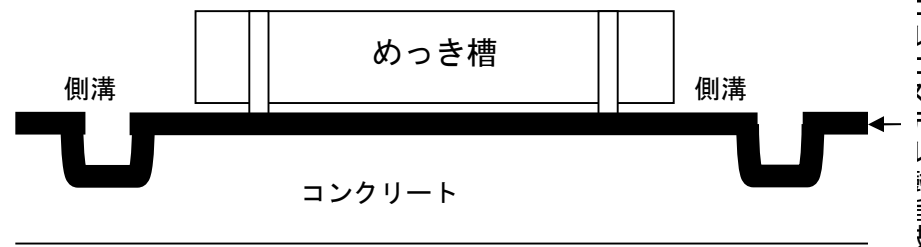
備考 1 合計欄には、排水口別の水量の合計を記載してください。

2 項目の欄に記載のない項目については、排水指定物質のうち排出のおそれのあるものについて記載してください。

排水の処理方法概要書

処 理 施 法	名称及び種類	排水処理施設	合併浄化槽
	設置場所	別紙〇のとおり	別紙〇のとおり
	工事着手予定年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇年〇〇月〇〇日
	工事完成予定年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇年〇〇月〇〇日
	使用開始予定年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇年〇〇月〇〇日
	型式	〇〇社製△△型	合併浄化槽 型式CS△△型
	構造	鉄筋コンクリート製	FRP製
	主要寸法	8m×10m×2m	
	能力(m <sup>3</sup> /日)	〇〇m <sup>3</sup> /日	〇〇m <sup>3</sup> /日 〇〇人槽
	処理方法	連続式 (油水分離、クロム還元、凝集沈殿、ろ過、中和等)	嫌気ろ床接触ばっ気方式
設計計算書	別紙〇のとおり	別紙〇のとおり	
使用 状況	月使用日数等	〇時間/回 〇回/日 〇日/月	〇時間/回 〇回/日 〇日/月
	季節変動	なし	なし
使用 する 消耗 資材	名称	硫酸、水酸化ナトリウム、亜硫酸水素ナトリウム、PAC	
	用途別	中和、還元、凝集、沈殿	
	1日当たりの使用量	硫酸(〇kg)、水酸化ナトリウム(〇kg) 亜硫酸水素ナトリウム(〇kg)、PAC(〇kg)	
敷地内における用水及び排水の系統		別紙系統図のとおり	

特定有害物質の製造等の作業に係る施設の構造概要書

<p>特定有害物質の製造等の作業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱脂洗浄施設でのトリクロロエチレンの使用</li> <li>・めっき施設での六価クロムの使用</li> </ul>	
<p>特定有害物質の製造等の作業に係る施設の構造の概要</p>	<p>共通の構造</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 耐性材質で被覆された不透水性材質の床面</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 防液堤, 側溝等流出を防止するための構造</li> </ul>
	<p>有機塩素系溶剤の作業に係る施設の構造</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 耐浸透性のある材質等による床面の被覆等</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> ステンレス鋼の受け皿等の設置</li> </ul>
	<p>構造の概要</p> <p>・脱脂洗浄施設</p>  <p>・めっき施設</p> 	

備考 1 □のある欄には, 該当する□内にレ印を記載してください。  
 2 構造の概要の欄については, 必要に応じて図面を添付してください。

騒音の処理方法概要書

(単位 デシベル)

発生源である施設等		動カプレス機 P-1	せん断機 S-1	メーカー資料等の 「機側Om、OOdB」 をもとに記入	
A 発生源での騒音レベル		$\frac{1\text{ m}}{78\text{ dB}}$	$\frac{1.5\text{ m}}{70.2\text{ dB}}$		$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
騒音 対策 による 減衰 値	B 音源対策による減衰	施設から直近の敷地境界線までの直線距離（繰り上げないこと）			
	C 距離減衰	$\frac{6\text{ m}}{15\text{ dB}}$	$\frac{6\text{ m}}{12.0\text{ dB}}$	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
	D 建屋による減衰	距離による減衰値「 $20 \log(\text{Cの距離} / \text{Aの距離})$ 」で計算 減衰値は繰り上げないこと（例：15.56→15もしくは15.5）			
	E 防音壁等による減衰				
	F 減衰値合計 B+C+D+E	15 dB	12.0 dB		
	敷地境界線での騒音レベル予測 A-F		63 dB	58.2 dB	
防音対策の具体的内容		ALC(50mm) 別紙構造図の とおり	ALC(50mm) 別紙構造図の とおり	施設が防音壁や建屋に覆われている場合、 壁の高さや材質、厚みを記入 (距離減衰で規制基準値を満たす場合、 D、Eに減衰値を記載しなくてもよい)	
施設の使用時間		8時00分～ 18時00分	8時00分～ 18時00分	規制基準値は用途地域によって 異なるため、別表13により確認する	
当該事業所に適用される 規制基準値		【午前8時から午後6時まで】 65 dB	【午前6時から午前8時まで及び午後6時から 午後11時まで】 60 dB	【午後11時から午前6時まで】 50 dB	
施設等の位置及びその位置 から敷地境界線までの距離		別紙敷地内建屋及び施設配置図のとおり 施設の位置がわかる図面に敷地境界線までの距離を記入			

振動の処理方法概要書

(単位 デシベル)

発生源である施設等		動力プレス機 P-1	せん断機 S-1		
① 発生源での振動レベル		$\frac{1 \text{ m}}{68 \text{ dB}}$	$\frac{1.5 \text{ m}}{60.1 \text{ dB}}$	メーカー資料等の 「機側Om、00dB」 をもとに記入	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
振 動 対 策 に よ る 減 衰 値	② 振源対策による減衰	施設から直近の敷地境界線までの直線距離（繰り上げないこと）			
	③ 距離減衰	6	6 m	m	$\frac{\text{m}}{\text{dB}}$
	④ その他の減衰	距離による減衰値を計算式により算出する ・川崎区の場合 「 $10 \log(\text{③の距離} / \text{①の距離})$ 」 ・川崎区以外の場合 「 $13 \log(\text{③の距離} / \text{①の距離})$ 」 減衰値は繰り上げないこと（例：7.78→7もしくは7.7）			
	⑤ 減衰値合計 ②+③+④	7.7 dB	6.0 dB		
敷地境界線での振動レベル予測 ①-⑤		60.3 dB	54.1 dB		
防振対策の具体的内容		防振ゴム 別紙構造図 のとおり	のとおり	防振器具等を使用している場合はその旨を記入 (距離減衰で規制基準値を満たす場合、②に減衰値を記入しなくてもよい)	
施設の使用時間		8時00分～ 18時00分	8時00分 18時0	規制基準値は用途地域によって異なるため、別表14により確認する	
当該事業所に適用される規制基準値		【午前8時から午後7時まで】 65 dB		【午後7時から午前8時まで】 60 dB	
施設等の位置及びその位置から敷地境界線までの距離		別紙敷地内建屋及び施設配置図のとおり 施設の位置がわかる図面に敷地境界線までの距離を記入			



### 用排水収支バランス

単位：m<sup>3</sup>/日  
 ( ) 内は最大値

